

独のノルトライン・ウエストファールン州

福島県人会が発足



設立総会で交流を深めた佐久間会長（前列右から3人目）、嶋崎総領事（同4人目）、山本副会長（同5人目）と県人会員ら

情報発信、風評払拭へ

ドイツ・ノルトライン・ウエストファールン州福島県人会が十九日までに発足した。交流を深めながら古里の情報を交換し、復興状況を発信して東京電力福島第一原発事故の風評払拭（ふっしょく）を目指す。ドイツでの県人会設立は初めて。

主な活動として、定

期的に懇親会を開催す

るほか、各種行事で本

県の情報を発信する。

ドイツでは東日本大震

災の復興状況など「福

島の今」を知る機会が

ほとんどない。このた

め、会員間で本県に関

する情報を共有し、ド

イツ人に発信して本県

への正しい理解や風評

払拭につなげる。応援

したい人の参加も歓迎

し、「福島県」をキー

ワードにネットワー

を広げていく。

会長にデュッセルドルフ日本人学校教頭の佐久間利則さん（五巴）郡山市出身・安積高卒Ⅱが就いた。副会長はいわき市で勤務経験のある山本純也さん、顧問は福島市で勤務経験のある馬場恒春さんが務める。

州都デュッセルドルフ市内の日本食レストランで設立総会が開かれ、本県出身の移住者や転勤者、県内の大学

で指導していた教授ら十七人が参加した。嶋崎郁在デュッセルドルフ日本国総領事らが祝辞を贈った後、乾杯し発足を祝った。

本県から日本貿易振興機構（JETRO）デュッセルドルフ事務所に向向している七海秀和さん（郡山市出身）が事務局を担当し、ワールド県人会の満山喜郎会長（白河市大信出身）を通して福島民報社に現地の様子を伝えた。

本県と同州はジェットロの事業を活用し、医療機器産業と再生可能エネルギー産業分野の経済・人材交流を進めている。学術、文化、スポーツ交流も深めている。

県に報告のある海外の県人会は、ドイツ・ノルトライン・ウエストファールン州福島県人会で十九カ国三十団体となった。